

常照

第816号

後生の一大事

生きている私たちにとって死んでいくことほどの大事件はありません。

仏教では生きている私たちが死んでいかねばならない以上の大問題は無いと説かれます。これを生死の一大事とも、後生の一大事ともいいます。

旅人が白骨（他人の死）を見たり聞いたたりした驚きと、虎と出く

わした驚きとは全く違うように、私たちは他人の死を見たり聞いたりしたときの驚きと、自分の目の前に死という問題が突き付けられたときの驚きとは全く違うのです。

「ポツクリ死ねたら それでいい」それ本当？

死という問題について話をする
と「死んだら死んだ時」「ポツクリ死ねればそれでいい」という声も聞こえてきます。

しかしそれは死ぬ、という現実を遠い先に追いやっているから言えることであって、いざ死という

問題が我が身の現実になれば、みんな死にたくないというのが本音ではないでしょうか。

こんな笑い話があります。

お寺参りを欠かさないお婆さんが、お寺に安置されている御本尊の阿弥陀如来に「阿弥陀様、わたしはつくづくこの世がいやになりました。今日も嫁が私をいじめます。です・・・早く今晚でもお迎えに来てください」と愚痴をこぼす。それを耳にした寺の小坊主は「あの婆さん、また同じことを言っておる。よくもまあ飽きずに同じことが言えるものだ」といたずらを考えました。

いつものようにお婆さんが、お

寺に参って愚痴話を言うのを見計らってお寺の御本尊の真後ろに隠れる。お婆さんが「早く迎えに来てください」と懇願するのを聞いて、小坊主は声色を変えて「わかった！婆さん、今晚迎えに行くからな！」と叫んだ。するとお婆さんは血相を変えて「ひえー、この阿弥陀様は冗談もまともに通じんわい」とあわてて逃げ去ったといひます。

このお婆さんのように、口先では早くこの世とおさらばしたいと言っても、私たちの本心は、死にたくないというのが本音ではないでしょうか。

太陽と死は直視できない

癌や、新型インフルエンザ、紛争、戦争、放射能汚染などは、どうして国際的な問題として注目され議論されるのでしょうか。それは、これらの問題が、私たちの生命を脅かすからです。つまり私たちは、癌や放射能、戦争が恐ろしいというよりもそれによって死ぬのが恐ろしいのです。

「死ぬ」ということはあまりにも大きなことなので、それをまともに見ることができません。

ラ・ロシュフォーコーという文学者の言葉に、「太陽と死は直視できない」というものがあります。

癌や、放射能汚染、戦争といった問題に向き合うことはできても、死そのものを直視することができないのです。

しかし、癌の特効薬が開発されても、インフルエンザのワクチンが準備されても温暖化問題が解決しても、安全でクリーンなエネルギー源が見つかっても人間は死ななくなるわけではありません。背後に迫る無常の虎は一步一步、近づき迫っているのです。

この現実をごまかさずに見たとき、死は一大事であることが知らされます。

どうかご一緒に一念仏申しませう。

南無阿弥陀仏・・・ 合掌

令和四年 年回表

一周忌	令和三年	寂
三回忌	令和二年	寂
七回忌	平成二十八年	寂
十三回忌	平成二十二年	寂
十七回忌	平成十八年	寂
二十三回忌	平成十二年	寂
(二十五回忌)	平成十年	寂
二十七回忌	平成八年	寂
三十三回忌	平成二年	寂
(三十七回忌)	昭和六十一年	寂
五十回忌	昭和四十八年	寂

※詳しくはお寺にお尋ねください。

一月の常例布教(ご法話)のご案内

○前期 一月九日(日)〜十一日(火)

休 座

○後期 一月十三日(木)〜十六日(日)

東京教区千葉組真宗寺

講師 柏倉 学師

○場 所 小樽別院内

○時 間 午後二時(法要終了後)〜

午後三時半

浄土真宗の御教えについて布教使にご法話を
して頂きます。どうぞお誘い合わせいた
き、お聴聞にご来院ください。席の間隔を
保ち、換気実施の上、お待ちしております。

発行所

☎047-0017

小樽市若松一丁目四番十七号
本願寺小樽別院

電話 (011-34) 21074
FAX (011-34) 21080
テレホン法話 (011-61) 1606